

令和元年度 学校自己評価結果報告書

学校法人蒲原学園
幼保連携型認定こども園
蒲原学園幼稚園

1. 教育・保育方針

乳児期

信頼できる大人と環境に囲まれ、穏やかで安心感にあふれた生活をおくる。その安心感の中で丁寧に子どもと関わり、基本的な生活習慣が身につくようにする。

幼児期

親・先生・友達に囲まれ、良い環境の中でたくさん遊び、本物の体験をする。それらの経験を通して、何事にも積極的に取り組んでいける力をはぐくむ。

2. 重点目標及び計画

- ・職員の資質向上に努める
- ・職員の幼保連携体制を構築する
- ・職員のワークライフバランスを向上させる

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組み内容及び評価理由
職員の資質向上	A	昨年度の反省を踏まえ、計画的なスケジュール設定により、外部研修への参加機会が増えた。
幼保連携体制の構築	A	幼保の職員の連携がとても密にできている。姉妹園が開園し、移動した職員のリカバリーに時間が掛かった印象がある。
ワークライフバランスの向上	B	前年度より職員数が減ったため、負荷がかかった面もあったが、以前より労働環境は良化しているため、職員間で協力して乗り切る事ができた。

※評価基準 A：充分達成 B：達成 C：成果が不十分 D：取組が不十分

4. 今後取り組むべき課題

新園がスタートし、複数園となった今年度、他の園から来た職員たちのスキルを学び、今までの園環境を見つめなおすチャンスである。しかし、それと同時に蒲原学園の良さに気付く事も多いのではないかと思う。

職員も増え、法規・規律を重んじなければならない「社会性」を強化していく事は必要ではあるが、それにより教職員の働きやすさが損なわれないよう、バランス感覚が重要となってくると思われる。

教育・保育に関する共通認識として

教職員が高いレベルで保育業務に当たれるように、全体的な質の向上を図っていく。乳児保育の経験豊富な職員を幼児教育の場に配置し、指導教諭とチームを組むことで、効率の良いスキルアップ態勢を構築する。

働く環境に関する共通認識として

子どものためだけでなく、自分のために・仲間のために・園のために、働いている事も忘れない。助け合える仲間・信頼できる仲間がいる職場を目指して全員の認識を同じにしていきたい。

5. 来年度に向けて

来年度の3歳児数も順調に確保できそうであるが、年々少子化・過疎化が進んでいく中、地域で絶対的に選ばれる園になるために油断せず、できる工夫や努力を惜しんではいけない。忙しさを言い訳にせず、一步一步でもいいから変化していく気持ちが大切であると感じている。

6. 学校関係者からの評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

公認会計士による会計監査により、適性に運営されていると認められた。

8. 静岡市による監査結果

文書指摘事項はありませんでした。